

215-314

国立国会
54.6.7
図書館

日本地球化学会ニュース

No. 86

1979. V.15

選挙公示

日本地球化学会1980・1981年度役員選挙の 立候補者および推薦候補者の届出について

1979年5月8日

日本地球化学会役員選挙管理委員会

本会会則により1980・1981年度役員選挙を次の日程で行ないます。

立候補者・推薦候補者〆切 7月31日(必着)

選挙公報・投票用紙・会員名簿発送

8月25日

投票〆切

9月30日(必着)

選挙結果公表(総会)

10月2日

つきましては、下記により、会長・副会長・評議員に対してそれぞれ立候補者および推薦候補者の届出をしていただくようお願いします。

1. 会長1名、副会長1名、評議員20名を選出します。

2. 立候補者の届出は、届書を立候補者自身が、I) 本委員会に持参するか、またはII) 本委員会宛に送付してください。
3. 推薦候補者の届出は、推薦候補者名と推薦者名を記した届書に、推薦候補者の承諾書をそえて、推薦者またはその代表者がI) 本委員会に持参するか、またはII) 本委員会宛に送付してください。
4. 第2項と第3項に記した以外の方法で届出が行なわれた場合には、届書をうけつけることができません。郵送の場合は、「書留郵便」として下さい。届書の封筒の表に(選挙)と記入して下さい。
5. 届出の〆切は、1979年7月31日(必着)です。
6. 本委員会の所在地は、
東京都豊島区目白1-5-1(〒171)
学習院大学理学部 木越邦彦

お知らせ

新名簿発行のため、住所および勤務先変更のかたは、至急、学会事務センターへご連絡下さい。6月30日を〆切とします。

お知らせ

1979年地球化学討論会

主催 日本地球化学会・共催 日本化学会

開催日 1979年10月1日(月)～3日(水)

会場 東京工業大学(大岡山)

内容 一般講演および特別セッション

特別セッションは半日(小型), ないし一日(大型)を一つの課題にあてる。コンビーナーの方針と創意によりスピーカーが指定される。特別セッションの課題としては, 大型のものとして岩石-水相互作用, 環境地球化学, 小型のものとして地球外物質, 希ガス問題および火山活動の化学などが用意されている。なお, これ以外に特別セッションを組織する御希望の方は至急年会実行委員会までお申出下さい。

講演申込締切 1979年6月23日(土)

講演要旨原稿締切 1979年8月18日(土)

申込受付次第, オフセット用原稿用紙をお送りします。

懇親会 1979年10月2日(火) 18時 東工大職員食堂

会費(一般3,500円, 学生1,500円)

参加, 要旨集および懇親会申込締切 1979年9月10日

以上の申込には必ず所定の申込用紙を用いて下さい。用紙は本ニュースに添付されています。年会参加費は不要です。要旨集代金(一般2,500円, 学生2,000円 郵送料とも), 懇親会費は上記の申込期限までに御送金下さい。要旨集代金は予約申込のないときは3,000円になります。

郵便振替: 口座番号 東京7-16609

加入者名 1979地化年会

申込書・要旨原稿など送付先

〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学理学部化学科 1979年度日本地球化学会年会 実行委員長 松尾禎士(電話03-726-1111, 内線2223)

評議員会報告

日: 1979年2月10日(土) 所: 赤門学士会館

出席者: 北野副会長, 金森, 佐藤, 立川, 市川, 木越, 長沢, 小嶋, 柴田, 綿拔, 青木, 中井, 松尾, 安藤, 石渡, 小椋各評議員, 鳥居監事。

報告

1. SCJ関係

5th Geochronology, Cosmochronology and Isotope geologyの国際会議が1982年日本で開かれることになった。

学術会議2次刊行物(10年分のレビュー)の地球化学編が発行された。((日本学術会議編)日本自然科学集報第4巻1979(Recent Progress of Natural Sciences in Japan Vol.4))

IUGS-IGC(1984年)の日本開催の可能性について報告があった。

IAGCの評議員に久城育夫氏がえらばれた。

2. 庶務(幹事会報告)

12月9日に開催した。評議員会議題について討議した。

第16回理工学における同位元素研究発表会(19

79年6月25～27日)

財政委員会の滞納者処理について検討した。1979年度年会について検討した。

3. 編集

G.J.の別刷のページチャージを廃止する。別刷代の単位を2ページ単位とする。G.J.No.4は3月に出る予定。

4. 財政

会費滞納者に関する処置をきめた。1977年度分未納者 30名, 1978年度分未納者 64名

5. 行事

2月10日(土)例会に45名が出席した。

6. ニュース

No.85(4ページ)を「地球化学」No.2の最後にとじこんだ。

7. 将来計画

特定研究設定の推進と研究者養成の現況調査を予定している。

8. 環境

「水汚染の機構と解析」現在第2刷を販売中。

9. 極地

ビクトリア大学Barett氏から中井, 鳥居両氏に

対してニュージーランドロス海西岸大陸棚掘削計画(MSSTS)(1979年10月中旬～11月実施予定)におけるCore Chemistryの研究の分担を日本でやるよう要請があった。

事

1. 会員移動

	正会員	賛助会員	名誉会員	計(名)
1978年10月現在	800	18	4	822
入会	22	0	0	22
退会	18	2	0	20
1978年12月現在	804	16	4	824

以上の報告を受け, 入退会を了承した。

2. 選挙管理委員会の発足について

委員として木越邦彦, 市川新, 小嶋稔の三氏を選出した。

3. 6月例会

6月9日(土)金沢で行なうことを決定した。

4. 1979年度学会事務センターとの契約更新について

更新契約更新を了承した。

5. 名誉会員推薦について

継続審議。

6. 将来計画委員会事業計画案(1979年度)

原案を了承した。

7. その他

(1) オブザーバーの件

SCJ関係の情報交換を円滑にする為, 本田雅健氏にオブザーバーとして評議員会に出席していただくことを決定した。

(2) 1979年度年会

東京工大での開催を確認した。(責任者 松尾禎士)

(3) 次回評議員会を6月9日(土)金沢大学で開くことを決定した。

第4回地質年代学・宇宙年代学・同位体地質学国際会議

表題の会議(Fourth International Conference on Geochronology, Cosmochronology and Isotope Geology)

1978年8月20日から25日まで, 米国コロラド州スノーマスで開催されたので簡単な報告を行なう。

今度の会議は第1回エドモントン(カナダ, 1967年), 第2回チューリッヒ・ベルン(スイス, 1969年), 第3

回パリ(フランス, 1974年)に続いて4回目になり, 参加者は約350名, 同伴者約100名という大きな会議となった。米国以外の参加者は27ヶ国から170人にのびた。日本人の参加者は19名であった。

会議は米国地質調査所, Geochemical Society など6つの機関の共同主催という形がとられ, 会議に提出された228編の小論文をまとめたものが, USGS Open-file Report 78-701(476p.)として参加者に配布された。全体会議として「宇宙の年代測定」(D.Schramm), 「地殻とマントルの放射起源同位体地質学」(C.Allegre), 「安定同位体による過去の食物分析」(M.DeNiro)の講演が行なわれ, そのあと2会場に分かれて5日間にわたり次のようなテーマに従って討論会が開かれた。

地質年代学: 1. 第四紀年代測定, 2. 地域年代学, 3. 地質年代尺度, 4. フィッショントラック法, 5. 先カンブリア時代, 6. $^{40}\text{Ar}/^{39}\text{Ar}$ 法。

宇宙年代学: 1. 同位体異常, 2. 太陽系の分化,

3. 隕石。

安定同位体: 1. 地熱・環境, 2. 同位体分別作用, 3. 気候・有機。

同位体トレーサー: 1. 同位体的不均質性, 2. ガス質マントル, 3. マントルと地殻, 4. マントルの時代的变化, 5. 島弧の火山作用ほか, 6. 海洋性玄武岩。

次に, 討論会の内容について特に印象に残った事をごく簡単に紹介する。まず地質年代学では, K-Ar法, Rb-Sr法と共にジルコンのU-Th-Pb年代測定がごく普通に行なわれていて, 重要なデータを提供していることである。わが国では今だにU-Th-Pb法が行なわれていないのは誠に残念である。質量分析計の性能向上により, 測定精度がいちじるしく高くなり, Sr同位体比については今や5桁表示が一般的なこととなった。 $^{40}\text{Ar}/^{39}\text{Ar}$ 法のシンポジウムでは, 方法論, 特にdisturbされた試料に対しての有効性が討論された。フィッショントラック法については, 今回は壊変定数に関する討議は行なわれなかった。

同位体トレーサー関係では, Nd同位体比を取りあつた論文が多かった。特に火成岩についてのNd同位体比($^{143}\text{Nd}/^{144}\text{Nd}$)の測定結果が多く発表され, それが $^{87}\text{Sr}/^{86}\text{Sr}$ と逆相関の関係にあり, 岩石の成因・進化の議論にきわめて有効であることが示された。また, 希ガス特に $^3\text{He}/^4\text{He}$, $^{40}\text{Ar}/^{36}\text{Ar}$ 比はマントルの情報と大気進化の問題をつなぐ意味からも強い注目をあびた。この分野では小嶋, 高岡, 兼岡, 斎藤らの活躍が目立った。ダイヤモンドの $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を手広く測定したソ連のGalimovらによると, $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比は従来考えられていたよりははるかに広い幅を持ち, マントル内の炭素の起

源は単純でないことをうかがわせた。松尾らはマン
トルの水の重水素濃度は海水にくらべかなり低いこと
を主張した。

安定同位体の地球化学に関しては、きわめて新しい
革命的な話はなかったように思われる。同位体比の
変動を追及することによって獲得できる知識は年代測
定を除くと、同位体分別係数の温度依存性にもとづく
平衡温度を中心とした広い意味の環境記述と、同位体
をトレーサーにみたてた、物質の起源や移動、混合を
解明することの二つに大別される。もちろんこの二
つは大なり小なりに相互作用がある。

前者についてみると、一つの系でいくつかのいわゆ
る同位体温度計を使うと異なる温度が得られ、その解
釈に苦しんでいるといった旧態依然たるものも散見さ
れた。しかし、天然界で常に同位体交換平衡が成立
している保証はないし、また当時平衡にあってもその
後平衡状態が乱されてしまっている場合もあろう。
そのような意味で、拡散あるいは速度論的なアプロ
ーチの要求は日に日に高まっていることが感じられる。
たとえばアメリカのGilettiらの、ケイ酸塩を含む系で
の酸素の拡散にもとづく研究、McCrumbらのCO-O₂
系での放電によるCO₂形成のさいに¹⁶Oおよび¹⁸OがCO
に濃縮されることに立脚した太陽系星雲内の化学反応
のシミュレーション、あるいは同位体は関係ないが、
アミノ酸のラセミ化の速度を実測して海底土の堆積速
度を求めようとしたWehmillerらの研究は、いずれも静
的な平衡だけを対象としていた従来の方向を打開する
一つのあらわれであろう。木の年輪の¹⁸O、¹³Cおよび
D濃度をもとにした古気候推定へのアプローチは、ア
リゾナ大学の年輪研究所に属する、LongおよびLerman
らの注意深い研究に感銘をうけた。このことに熱中
しているEpsteinのいらい立ちが興味深かった。

技術的な話題は比較的乏しかったが、酒井らによる
強リン酸にSn⁴⁺を含むいわゆる“木羽溶液”による、
SO₄²⁻とS²⁻の分離抽出と³⁴S/³²S測定技術は多くの注目
を集めた。

中国から4人(1人は未登録)の科学者が参加して熱
心に会場内外で話を聞いていたのが注目された。もち
ろんこの会議には初めての参加であり、中国の積極的
な国際的進出をうかがわせた。どの国際会議でもそ
うだが、討論となると英語を母国語とする人々が主役
になってしまう。われわれが討論に弱いのは一つは
控え目な態度もあるが、英語で話をきいて全般のアイ
ディアを適確につかまえないことが最大の原因で
あるように思った。実際多くの日本人は、対話形式
のときはかなりの能力を発揮していたが、講演にかみ
つく方ではきわめておとなしい参加者だった。

今期中に、大多数の参加者が出席して、今回の会議
の開催国をさめる集会が開かれた。日本はすでに開
催の希望を主催者側に伝えてあり、本田雅健教授が招
待演説をされた。他に立候補した国はなく、結局出
席者全員の賛成で1982年日本開催が決定した。

(松尾禎士・柴田 賢)

学会カレンダー 1979 (国内)

月 期 間	学 会 名	開 催 地
6 25-27	理工学における 同位元素研究発表会	国立教育会館
9 25-27	火山学会(秋)	北海道有珠郡
10 1-3	日本地球化学学会年会	東京工業大学
10 1-3	日本地質学会年会	秋田大学
10 4-8	日本海洋学会秋季大会	愛媛大学
10 6-9	三鉱学会	静岡大学
10 7-10	日本分析化学会	日大工学部
10 18-21	日本化学会秋季年会	福岡市

学会カレンダー 1979-80 (国外)

8/20-9/5	第14回太平洋学術会議	ハバロフスク (ソ連)
9/3-7	第42回隕石学会年会	ハイデルベルグ (西ドイツ)
9/17-20	第9回有機地球化学 国際会議	ニューカースル (英国)
1980年		
4/10-15	第8回国際地化探 シンポジウム	ハノーバー (西ドイツ)
7/7-17	第26回万国地質学会	パリ(フランス)

編集者 安藤 厚・柴田 賢

発行所 日本地球化学会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル(4F) 日本学会

事務センター内

電話 東京 03(815)1903

なお日本地球化学会庶務へのお問い合わせは下記へお願
い致します。東京都立大学理学部化学科 石渡 良志
(庶務幹事) 〒158 東京都世田谷区深沢2-1-1
電話 東京 03(717)0111

日本地球化学会ニュース

No. 87

1979. VIII. 10

1979年度 日本地球化学会年会

主催 日本地球化学会

後援 日本化学会

日時 1979年10月1日(月)~10月3日(水)

会場 東京工業大学(大岡山)

東京都目黒区大岡山2-12-1

(連絡先 03-726-1111 内線2223 松尾禎士)

	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1 日 (月)	A	一般講演					一般講演			
	B	島弧火山岩と テクトニクス					地球化学的方法による 火山観測			
	C	一般講演					一般講演			
	D	一般講演					一般講演			
2 日 (火)	A	環境地球化学				総会	環境地球化学(続)			
	B	一般講演					一般講演			
	C	一般講演					地球と希ガス			
	D	一般講演					一般講演			
3 日 (水)	A	一般講演					一般講演			
	B	岩石-水相互作用					岩石-水相互作用(続)			
	C	一般講演					一般講演			
	D	一般講演					一般講演			

懇親会: 2日(火) 18時~ 於 新職員食堂

講演時間：一般講演は討論を含めて18分を予定として
います。特別セッションの講演は特に指定されたもの
を除いて討論を含めて25分の予定です。

第1日 10月1日(月)

A会場

一般講演(9:00~12:00) 座長 大槻 晃
小椋和子・中井信之

- 1 A 01 水中の微量ポリオキシエチレンアルキルフェ
ニルエーテル中性洗剤の分離と同定
°大槻 晃, 白石寛明(国立公害研)
- 1 A 02 水道水中の難揮発性有機物の分析
°篠原亮太, 貴戸 東, 衛藤修一
堀 悌二(北九州市環境衛生研)
- 1 A 03 富栄養化水域における溶存高分子有機物の化
学組成
°半田暢彦, 浜 健夫(名大水圏研)
- 1 A 04 河口における溶存タンパク態物質の挙動
°田中良春, 小倉紀雄(東京農工大農)
- 1 A 05 脂肪酸を指標とした海洋における有機物の鉛
直輸送について
°半田暢彦, 田上英一郎(名大水圏研)
- 1 A 06 Kerogen 中のポリメチレン鎖の起源 II. 藻
類中の可溶性および不溶性有機物の寄与
°町原 勉, 石渡良志(都立大理)
- 1 A 07 堆積物中の不溶性有機物の解析 II. 真空熱
分解
福島和夫(都立大理)
- 1 A 08 堆積高分子有機物による有機物のとりこみ現
象 II. アミノ酸について
°山本修一, 石渡良志, 福島和夫(都立大理)
- 1 A 09 海底堆積物中のアミノ酸の存在状態に関する
フミン物質の寄与
米田義昭, °門谷 茂, 清水洋一(北大水産)

- (13:00~15:00) 座長 石渡良志・半田暢彦
- 1 A 10 堆積物及び土壌中のペリレンキノン類定量法
の検討
°間宮利夫, 石渡良志(都立大理)
- 1 A 11 伊勢・三河湾における堆積物中有機物の $\delta^{13}\text{C}$
値
中井信之, 萩田晴久(名大理)
°佐野方昂(愛知県公害調査センター)
- 1 A 12 堆積有機物の熱変化実験(2) リピッド成分
からの炭化水素生成過程の解析
°塩谷 真, 石渡良志(都立大理)

- 1 A 13 湖底堆積物中のヒドロキシ酸およびジカルボ
ン酸の存在とその地球化学的意義
°河村公隆, 石渡良志(都立大理)
- 1 A 14 堆積物におけるアミノ酸のラセミ化反応 III
°田中信幸, 半田暢彦(名大水圏研)
- 1 A 15 堆積物におけるアミノ酸のラセミ化反応 IV
°田中信幸, 半田暢彦(名大水圏研)
(15:20~17:00) 座長 野津憲治・平尾良光
- 1 A 16 コアKH73-4-7における酸素同位体比に
見られる第4紀後半の気候変動
°白井靖敏(桑名西高)
中井信之(名大理)
- 1 A 17 汽水湖堆積物コアの $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比および硫酸銻物
含量による古気候変動の推定
°中井信之, 清棲保弘, 三国和美(名大理)
- 1 A 18 大気中の ^{14}C 濃度変動と気候変動
木越邦彦(学習院大理)
- 1 A 19 須恵器におけるRb, Sr分布
°三辻利一, 岸山藤彦, 竹内静香(奈良教大)
- 1 A 20 鉛同位体比測定による考古遺物の産地の研究
室住正世, 中村精次, 湯浅光秋
°渡会素彦(室蘭工大)
山崎一雄(名大)

B会場

- (特別セッションー島弧火山岩とテクトニクス)
コンピーナー 佐藤和郎(京大震研)
(9:00~12:00) 座長 小沼直樹・杉崎隆一
増田彰正
- 1 B 01 伊豆マリアナ島弧第三紀火山岩の地球化学的
進化
°白木敬一(名大理)
黒田 直(静岡大理)
浦野隼臣(愛知教大)
- 1 B 02 インドネシアの島弧と火山岩
西村 進(京大教養)
- 1 B 03 南太平洋Nauru 海盆におけるプレート間火山
活動
°藤井直之(神戸大理)
野津憲治, 小沼直樹(筑波大化)
- 1 B 04 テクトニクスの立場からみた島弧火山岩の
ストロンチウム同位体比
小林洋二(神戸大理)
- 1 B 05 島弧火山岩の組成とテクトニクス
杉崎隆一(名大理)
- 1 B 06 日本の第4紀火山の噴出物の天然放射性核種
の示す島弧火山活動の特徴
°佐藤和郎(京大震研)

佐藤 純(明大工)

- 1 B 07 東日本の火山フロント沿いの2種のマグマー
その量的関係

増田康之(大阪府大総合)

- 1 B 08 火山フロントと希土類元素パターン
°増田彰正, 藤谷達也(神戸大理)

(特別セッションー地球化学的方法による火山観測)
コンピーナー 小坂丈予(東工大工)
鎌田政明(鹿児島大理)

- (13:15~15:00) 座長 小坂丈予・水谷義彦
- 1 B 09 火山の活動度の消長にともなう火山ガス放出
量ならびに温泉泉質の推移
太田一也(九大理)

- 1 B 10 桜島火山における火山ガスの連続測定と活動
状況
°平林順一, 小坂丈予(東工大工)
小沢竹二郎(埼玉大工)

- 1 B 11 桜島周辺の火山活動に伴う物質の移動量
°鎌田政明, 坂元隼雄(鹿児島大理)
大西富雄(鹿児島大教養)
- 1 B 12 吾妻火山一切経山1977-1978年活動に伴う
火山ガス・温泉成分の変化
°小沢竹二郎, 君島克憲
当麻喜明(埼玉大工)
小坂丈予, 平林順一(東工大工)
染谷 悟(上智大理工)

- (15:05~17:15) 座長 小沢竹二郎・鎌田政明
- 1 B 13 草津白根火山の各種方法による地球化学的観
測
°野村昭之介(上智大理工)
小坂丈予(東工大工)
- 1 B 14 海底噴火における地球化学的現象
°小坂丈予, 平林順一(東工大工)
- 1 B 15 那須岳における火山性蒸気の同位体比と火山
活動との関連
水谷義彦(富山大理)

- 1 B 16 有珠山活動期の洞爺湖畔温泉の成分, 特にホ
ウ素, 水銀の変動
°小管恒夫, 西村雅吉(北大水産)
中谷 周(弘前大理)
内野栄治(道衛生研)

- 1 B 17 有珠火山の噴火活動の消長と化学的情報との
関係
松尾禎士(東工大大理)

- 1 B 18 有珠火山の噴火活動の消長と化学的情報との
関係
松尾禎士(東工大大理)

- 1 B 19 有珠火山の噴火活動の消長と化学的情報との
関係
松尾禎士(東工大大理)

- 1 B 20 有珠火山の噴火活動の消長と化学的情報との
関係
松尾禎士(東工大大理)

- 1 B 21 有珠火山の噴火活動の消長と化学的情報との
関係
松尾禎士(東工大大理)

- 1 B 22 有珠火山の噴火活動の消長と化学的情報との
関係
松尾禎士(東工大大理)

- 1 B 23 有珠火山の噴火活動の消長と化学的情報との
関係
松尾禎士(東工大大理)

- 1 B 24 有珠火山の噴火活動の消長と化学的情報との
関係
松尾禎士(東工大大理)

C会場

一般講演(9:00~11:20) 座長 赤岩英夫
原口紘丞

- 1 C 01 海水中のカルシウムおよびマグネシウムの高
精度分析法
°池上 尚, 金森 悟, 北野 康
(名大水圏研)
- 1 C 02 ICP発光分析法による海水の多元素同時分
析
°松井正宏, 野尻幸宏, 小林憲正, 千葉光一
岩田泰夫, 原口紘丞, 不破敬一郎(東大理)
- 1 C 03 銀粒子トラップー冷原子吸光分析法による海
水中の水銀分析
°高橋純一, 渡辺 裕, 松井正宏, 千葉光一
岩田泰夫, 原口紘丞, 不破敬一郎(東大理)
- 1 C 04 太平洋インド洋および南大洋海水中のプルト
ニウム, アメリシウム含量
三宅泰雄(地化協)
°広瀬勝己, 杉村行勇(気象研)

- 1 C 05 北太平洋西部海水中のホウ素含量
°桜井澄子, 鈴木 款, 猿橋勝子(気象研)
- 1 C 06 死海の水の化学組成(第2報)
三宅泰雄(地化協)
猿橋勝子, °鈴木 款, 杉村行勇(気象研)

- 1 C 07 フィリピン海深層水の化学的性質
°蒲生俊敬, 堀部純男(東大海洋研)

- (11:20~12:00; 13:00~15:00)
座長 金森 悟・平良初男・樽谷俊和
- 1 C 08 秋吉石灰岩の化学組成 I
°柴 哲浩, 吉村和久, 樽谷俊和(九大理)
- 1 C 09 潮干帯における炭酸塩膠結作用について
°大森 保, 前田昌秀(琉大理)

- (13:00~)
1 C 10 沖縄県沖縄島に分布する炭酸塩岩のフッ素含
量
赤岩英夫, °相沢省一(群馬大工)

- 1 C 11 琉球諸島に産する炭酸塩物質のBa含有量
T. J. Chow (スクリップス海洋研)
°兼島 清, 平良初男, 渡久山 章
大森 保(琉大理)

- 1 C 12 琉球石灰岩地域に産するドロマイト岩石中の
UおよびThとその同位体
°平良初男, 渡嘉敷 勇(琉大理)

- 1 C 13 貝殻の構造の不均一性について
°金森 悟, 金森暢子, 北野 康
(名大水圏研)

- 1 C 14 炭酸カルシウムによる銅・亜鉛の共沈殿ーそ
の量的関係
°佐藤和郎(京大震研)

- 1 C 15 炭酸カルシウムによる銅・亜鉛の共沈殿ーそ
の量的関係
°佐藤和郎(京大震研)

- 1 C 16 炭酸カルシウムによる銅・亜鉛の共沈殿ーそ
の量的関係
°佐藤和郎(京大震研)

- 1 C 17 炭酸カルシウムによる銅・亜鉛の共沈殿ーそ
の量的関係
°佐藤和郎(京大震研)

- 1 C 18 炭酸カルシウムによる銅・亜鉛の共沈殿ーそ
の量的関係
°佐藤和郎(京大震研)

- 1 C 19 炭酸カルシウムによる銅・亜鉛の共沈殿ーそ
の量的関係
°佐藤和郎(京大震研)

の沈殿初期過程における異常性
井戸垣正俊, °奥村 稔 (島根大理)
北野 康 (名大水圏研)
1 C15 炭酸カルシウムへの微量金属元素の分配
赤岩英夫, 川本 博, °福地克彦 (群馬大工)

(15:00~17:00) 座長 大森 保・兼島 清
1 C16 Mg-Calcite の合成と溶解度測定
新垣 武 (沖縄県材試)
°渡久山 章 (琉大理)

1 C17 CaCO₃ 多形生成の要因分析
°佐藤満雄, 黒川利夫, 松田俊治 (群馬大工)

1 C18 生物性炭酸殻の結晶転移について
北野 康, 金森暢子 (名大水圏研)
°吉岡小夜子 (愛教大)

1 C19 アラゴナイトからカルサイトへの転移に伴う
熱蛍光の変化
°今村洋一郎, 小田切めぐみ
阿部修治 (東京農工大工)

1 C20 海洋性生物が形成する石灰質および珪酸質物
質中の希土類元素
°池内嘉宏, 増田彰正 (神戸大理)

1 C21 淡水性生物が形成する石灰質物質中の希土類
元素
°池内嘉宏, 竹中照雄, 山本博史
増田彰正 (神戸大理)

D会場
一般講演 (9:20~12:00) 座長 角皆静男・
吉岡小夜子

1 D01 水酸化鉄 (III) の沈殿生成に及ぼすケイ酸の
影響
°後藤克己, 由口 茂 (富山大理)

1 D02 Fe₂O₃-SiO₂系含水鉱物の産状とその合成実
験
小坂丈子, 平林順一, °今枝万佐子
(東工大工)

1 D03 水酸化アルミニウム, 水酸化第二鉄に吸着し
たケイ酸の挙動
°横山拓史, 樽谷俊和 (九大理)

1 D04 非晶質シリカ/水溶液界面における酸塩基解
離平衡
°忽那一也, 金森 悟 (名大水圏研)

1 D05 銅、カドミウムのマンガン酸化物-水溶液間
の分配
北野 康, °藤吉亮子 (名大水圏研)

1 D06 深海産マンガン団塊の微細構造
中谷 周 (弘前大理)

1 D07 堆積環境の違いによるマンガンの存在形の変
化について
°日下部正志, 米丸 泉
角皆静男 (北大水産)

1 D08 海底土中のBa, Cu, Zn, Ni, Co, Pbの初期結成
過程に伴う移動について
°角皆静男, 米丸 泉
日下部正志 (北大水産)

(13:00~15:10) 座長 福島和夫・松永勝彦

1 D09 浮遊油の赤外線映像
荒木春視 (東洋航空事業)

1 D10 海水中の微量金属元素の存在状態について。
その2. チタン, マンガン
°豊田恵聖, 赤川郁夫, 岡部史郎
(東海大海洋)

1 D11 海水中の溶存有機形金属化合物の性質
°杉村行勇, 鈴木 款 (気象研)
三宅泰雄 (地化協)

1 D12 海水中の溶存金属元素の生物地球化学的意義
について
三宅泰雄 (地化協)
°杉村行勇, 鈴木 款 (気象研)

1 D13 北太平洋西部海水中の溶存アミノ酸含量
杉村行勇, °鈴木 款 (気象研)
三宅泰雄 (地化協)

1 D14 沿岸海域における有機錯体鉄の挙動
松永勝彦, °五十嵐康二
深瀬 茂 (北大水産)

1 D15 クラフト法パルプ製造廃液中の有機成分の海
水接触時における挙動 (1)
広田 致, °岩見 聡 (東海大海洋)

(15:10~17:00) 座長 岡部史郎・鈴木 款
1 D16 河川・湖底堆積物中のフミン酸-鉄相互作用
について
°佐塚直孝, 高橋敬子, 福島和夫
半谷高久 (都立大理)

1 D17 河川および海域底土中のバナジウムおよびチ
タン
江場弘樹 (愛知県公害調査センター)

1 D18 湿泥-乾泥における金属元素の溶出挙動
江場弘樹 (愛知県公害調査センター)

1 D19 利根川底質中の重金属

°小倉久子, 鎗田 功, 小林節子
中島 淳 (千葉県水質保全研)

1 D20 人工貯水池堆積物の地球化学的研究
°坂田昌弘, 下田 修, 新田義孝
寺田信之 (電力中研)

1 D21 都市域堆積物の環境的意義の評価 (第三報)
半谷高久, °宮内慎太郎 (都立大理)
遠藤立一, 佐々木裕子 (都公害研)
長尾孝一, 松崎 理 (千葉大医)

第2日 10月2日(火)

A会場
[特別セッション-環境地球化学]
コンピーナー 一国雅己 (東工大総合理工)
桂 敬 (東工大理)

(9:00~12:00) 座長 石渡良志・一国雅己
2 A01 河川における物質収支 (45分)
小倉紀雄 (東農工大)

2 A02 濃尾平野の地下水質変動とその要因
杉崎隆一 (名大理)
桑原 徹 (名城大理工)
°杉浦 孜 (愛教大)
森 和紀 (三重大教育)

2 A03 霞ヶ浦高浜入における酸化還元電位の変動と
酸素供給状況
°河合崇欣, 相崎守弘, 佐竹研一
(国立公害研)

2 A04 水環境中のABSの挙動
°本波裕美, 山本修一, 半谷高久 (都立大理)
2 A05 水圏における種々の物質の行動に与える粘土
鉱物およびフミン質の役割 I. 現存堆積物
中の微細粒子, その存在量と組成
°小椋和子, 山本浩司, 福島和夫
石渡良志 (都立大理)

2 A06 底質からみた東京湾の有機汚染
松本英二 (地調)

日本地球化学会総会 (13:00~14:00, A会場)

[特別セッション(晩) (14:00~17:00)]
座長 一国雅己・桂 敬・寺田喜久雄

2 A07 生体における重金属の役割 (45分)
山中健生 (阪大理)

2 A08 大腸菌の生成に対する金属の阻害効果
(45分)
中村佳代子 (都臨床研)

2 A09 浅海域における海水-堆積物境界域での重金

属の堆積挙動
°富山千里, 寺田喜久雄 (金沢大理)

2 A10 有機塩素化合物: 海洋試料の捕集・分析法お
よび海洋での挙動
立川 涼 (愛媛大農)

2 A11 大気中におけるハロカーボン類の分布と挙動
°巻出義紘, 金井 豊, 富永 健 (東大理)

B会場
一般講演 (10:00~12:00)
座長 長沢 宏・野津憲治・森岡正名

2 B01 低酸素分圧下における溶融玄武岩中のナトリ
ウムとカリウムの拡散
岩崎文嗣 (秋田大鉱山)

2 B02 オリビン中の陽イオン拡散係数 (Co-Mg)
森岡正名 (東大RIセンター)

2 B03 貝殻のイオニウム年代測定における試料の前
処理
満田 伯 (学習院大理)

2 B04 α反跳を受けた²³⁰Thによる火山岩の新しい
年代測定法
°吉田則夫, 木越邦彦 (学習院大理)

2 B05 インド・デカン高原火山岩の⁴⁰Ar/³⁹Ar年代
とその活動期間
兼岡一郎 (東大理)

2 B06 一の目潟地域の塩基性岩類およびその捕獲岩
類のSr同位体比
°座主繁男, 兼岡一郎 (東大理)
青木謙一郎 (東北大理)

日本地球化学会総会 (13:00~14:00, A会場)
(14:00~17:00)

座長 岩崎文嗣・清水 洋・村松康行
2 B07 日本産方鉛鉱の鉛同位体比
°山幡裕美, 平尾良光
木村 幹 (青山学院大理工)
馬淵久夫 (東京国立文化財研)

2 B08 Ba-K システムティクス, 原理と応用
°小沼直樹, 平野真孝 (筑波大化)

2 B09 伊豆諸島火山岩におけるBa-K システムティ
クス
°平野真孝, 小沼直樹 (筑波大化)
一色直記 (地調)

2 B10 鹿児島県大隅地域産花崗岩類のフッ素および
塩素

- °浦野隼臣（愛知教大）
津末昭生（熊本大理）
- 2 B 11 丹沢複合岩体中のREE等の分析
°吉川清志，石坂恭一（京大理）
- 2 B 12 タヒチ島の岩石中の希土類元素について
°寺門靖高（京大理）
増田彰正（神戸大理）
- 2 B 13 高温高压実験によるケイ酸塩中の希土類元素の分配に関する研究
°清水 洋，三軒一義，増田彰正（神戸大理）
- 2 B 14 Boninite 全岩およびBronzite 斑晶中の微量元素
平野真孝，°小沼直樹（筑波大化）
白木敬一（名大理）
長沢 宏（学習院大理）
黒田 直（静岡大理）
- 2 B 15 南アフリカ産キンバーライトの成因について
村松康行（放医研）
- 2 B 16 Mg-Niかんらん石，輝石固溶体の単位格子パラメタの再決定
°山田裕久，松井義人，伊藤英司
（岡山大温研）

C会場

一般講演（9：00～10：40）

座長 日下部 実・半田暢彦

- 2 C 01 $^{14}\text{CO}_2$ による炭素固定量測定法の検討（自己吸収の補正法）
佐竹研一（国立公害研）
- 2 C 02 植物の光合成に用いられる炭素の起源
木越邦彦，°鈴木信子，白木真理
（学習院大理）
- 2 C 03 生物試料の窒素同位体組成（ $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$ ）と食物連鎖について
°南川雅男，和田英太郎（三菱化成生命科研）
- 2 C 04 種々の環境下における脱窒様式と窒素同位体効果
°和田英太郎，柴田勲子（三菱化成生命科研）
- 2 C 05 東シナ海におけるプランクトンの窒素同位体組成
°南川雅男，和田英太郎（三菱化成生命科研）

（10：40～12：00） 座長 木島宣明・和田英太郎

- 2 C 06 希ガスヘリウム同位体原子の存在について
吉岡亀太
- 2 C 07 堆積性酸化鉄の酸素同位体比について

- °松葉谷 治（岡山大温研）
S. Epstein（加州工大）
- 2 C 08 石墨-炭酸塩の炭素同位体地質温度計について
°和田秀樹，鈴木和博（名大理）
- 2 C 09 尿素および蔗糖水溶液における水和圈内の水の同位体分別
°垣内正久，松尾禎士（東工大理）

日本地球化学会総会（13：00～14：00，A会場）

〔特別セッション—地球と希ガス〕

コンビーナー 小嶋 稔（東大理）

（14：00～17：00） 座長 小嶋 稔・高岡宣雄

- 2 C 10 一次大気存在と地球物質への希ガスの溶解—ネオン問題
°水野 博，中沢 清，林 忠四郎（京大理）
- 2 C 11 希ガス同位体分析の地球科学への応用
高岡宣雄（山形大理）
- 2 C 12 ベリル中の希ガス
°斎藤和男（山形大理）
E. C. Alexander（ミネソタ州立大）
- 2 C 13 地球の希ガス：その起源
小嶋 稔（東大理）
中沢 清（京大理）
- 2 C 14 断層空気の放出と地殻歪との関係について
杉崎隆一（名大理）
- 2 C 15 岩石破壊の際の希ガス放出機構
°本田勝彦，栗田 敬，浜野洋三（東大理）

D会場

一般講演（10：00～12：00）

座長 阿部修治・清棲保宏・綿抜邦彦

- 2 D 01 秋田県八橋油田塩水の化学的，同位体化学的特徴
°茂野 博，阿部喜久男（地調）
相場倅一，藤田嘉彦，宮本泰行（帝国石油）
- 2 D 02 Celestite と熱水との間の鉛の分配
°浅野靖宏，高野稔一郎
綿抜邦彦（東大教養）
- 2 D 03 安山岩—海水間300°C，1000barにおける熱水反応について
°遠藤三紀也，酒井 均
木島宣明（岡山大温研）
- 2 D 04 地熱地帯に産するエピドートの水素同位体比
丸茂克美（名大理）

- 2 D 05 熱水性カルサイトの存在環境とその酸素同位体比
°日下部 実（富山大理）
渡辺修一（東工大理）

- 2 D 06 火山ガス中の希ガスの分析法
大西富雄（鹿児島大教養）

日本地球化学会総会（13：00～14：00，A会場）

一般講演（14：00～16：00）

座長 安孫子 勤・大西富雄・茂野 博

- 2 D 07 登別温泉における最近の化学成分の変化
安孫子 勤（室蘭工大）
- 2 D 08 新潟県松之山温泉の地球化学的研究
°阿部修治，江口 博（東京農工大工）
酒井 均（岡山大温研）
飯島南海夫（信州大教）
- 2 D 09 八幡平地熱地帯における炭酸塩・硫黄鉱物の安定同位体組成
°山本典保，中井信之（名大理）
- 2 D 10 静岡県中伊豆町菅引山産の石膏および共存鉱物の同位体組成について
水谷義彦（富山大理）
- 2 D 11 硬石膏—水系における酸素同位体交換反応の機構について
°千葉 仁（東工大理）
日下部 実（富山大理）
- 2 D 12 熱水における硫酸還元硫黄同位体効果について
清棲保宏（名大理）

第3日 10月3日（水）

A会場

一般講演（9：00～12：00）

座長 乗木新一郎・平木敬三・松本英二

- 3 A 01 北部北太平洋に設置したSediment trapに捕集された放射性核種
°田中教幸，角皆静男（北大水産）
- 3 A 02 化学組成からみた海洋表層水中の懸濁粒子の鉛直変化
°植松光夫，角皆静男（北大水産）
- 3 A 03 海洋堆積物中のセレンについて
°平木敬三，西川泰治，玉利祐三
（近畿大理工）
- 3 A 04 堆積物中イオウのスズ—強リン酸による定量
°八耳俊文，中井信之（名大理）

水谷義彦（富山大理）

- 3 A 05 関東北部地域における泥質岩の硫黄含量
狛 武（地質調査所）
- 3 A 06 四国海盆の堆積物とくにIPOD，Leg 58で得られた堆積物の化学組成
杉崎隆一（名大理）
- 3 A 07 富山湾沿岸と大和海盆の堆積物の鉱物種と間隙水の化学成分の比較
°石塚明男，藤岡換太郎
堀部純男（東大海洋研）
- 3 A 08 堆積物の化学状態から見た日本海深海堆積物における続成
増沢敏行（名大水圏研）
- 3 A 09 日本海海底土の地球化学的研究
°木下 貴，杉崎隆一（名大理）

（13：00～15：30） 座長 平尾良光・増沢敏行

- 3 A 10 沿岸域における微量金属の沈降と除去
乗木新一郎（北大水産）
- 3 A 11 海底堆積物におけるウランの挙動
°日下部正志，角皆静男（北大水産）
- 3 A 12 伊勢湾・三河湾底質中の金属元素の挙動について
°藤田 誠，江場弘樹，坂井 勉
（愛知県公害調査センター）
萩田晴久（名大理）
- 3 A 13 重金属の濃度相関マトリックス解析の問題点
°西田英郎（日本工業大）
鈴木静夫（東京理科大薬）
多田 史（高崎経済大）
- 3 A 14 東京湾堆積物の初期続成過程におけるマンガンの挙動
°坂田昌弘（電力中研）
北野 康（名大水圏研）
松本英二（地調）

- 3 A 15 ホウ素量による堆積環境（古塩分）の推定
°稲積章生，合田典子（香川大教育）
- 3 A 16 ホウ素量よりみたイランの二畳系—三畳系境界付近の石灰岩の堆積環境変化
°稲積章生，坂東裕司（香川大教育）
- 3 A 17 ケイ質・石灰質深海堆積物の埋没過程に於ける酸素同位体比変化についての速度論的一考察

川辺岩夫（愛媛大理）

B会場

〔特別セッション—岩石—水相互作用〕

コンピーナー 酒井 均(岡山大温研)
(9:00~10:40) 座長 北野 康

3 B 01 地表およびその付近における岩石の変質作用
と水質との関係

小坂丈子(東工大工)
3 B 02 風化, 変質についての2, 3の問題

都築芳郎(愛媛大理)
3 B 03 分析電顕による斜長石の粘土化の追跡

田崎和江(岡山大温研)
3 B 04 粘土鉱物からみた地熱熱水変質作用

°金原啓司, 角 清愛(地調)

(10:40~12:00) 座長 梶原良道
3 B 05 日本各地に産する粘土鉱物の水素・酸素同位
体比について

°丸茂克美(名大理)
松久幸敬(地調)

本田朔郎(秋田大鉱山)
長沢敬之助(静大理)

3 B 06 熱水条件下での拡散現象
大隅多加志(東工大理)

3 B 07 固溶体鉱物, イオン交換, 地殻内部物質移動
飯山敏道(東大理)

[特別セッション続]

(13:00~14:15) 座長 飯山敏道
3 B 08 花崗岩質メルトー水蒸気間の微量元素の分配
係数の推定

小沼直樹(筑波大化)

3 B 09 ペリドタイトー海水反応の同位体および各種
元素の挙動に関する実験的研究

°堤 真, 酒井 均, 木島宣明(岡山大温研)

3 B 10 $Mg(OH)_2$ (ブルーサイト)の熱水への溶解度
°木島宣明, 酒井 均(岡山大温研)

(14:15~15:30) 座長 都築芳郎

3 B 11 硫酸水溶液と過剰の火山岩の反応(3)
吉田 稔(東工大理)

3 B 12 水-岩石相互作用における陰イオンの役割
神谷 宏(名工大)

°今橋正征, 高松信樹(東邦大)

3 B 13 岩石の変質過程の地球化学的研究—玄武岩の
変質

°葉袋佳孝, 脇田 宏, 富永 健(東大理)

(15:30~16:45) 座長 金原啓司
3 B 14 青函トンネルでの海水-淡水混合物と岩石と

の相互作用
関 陽太郎(埼玉大工)

酒井 均(岡山大温研)
°大木靖衛, 平野富雄(神奈川県温泉地学研)

J.G.Liou, S.W.Dickson(スタンフォード大)

3 B 15 花崗岩地帯の天然水の水質形成機構に関する
一考察

°高松信樹, 下平京子, 今橋正征(東邦大)

吉岡龍馬(京大防災研)

神谷 宏(名工大)

3 B 16 カメルーン南部のラテライト皮殻をともなう
風化層の化学組成について

°寺井 稔, 竹内みゆき(都立大理)

堀 信行(広島大)

門村 浩(北大)

(16:45~17:35) 座長 大木靖衛
3 B 17 化学元素の地球化学的収支に果たす水-岩石
相互作用

北野 康(名大水圏研)

3 B 18 鉱床成因論的に見た海洋進化像
°梶原良道(筑波大地球科学)

佐々木 昭(地調)

C会場
一般講演(9:00~12:00)

座長 加藤喜久雄・竹内丑雄・野田徹郎

3 C 01 宮城県小原温泉地域のsoil air中のHg, CO₂
量

°渡辺淳夫, 鈴木幸喜(東北学大工)

3 C 02 多孔質金による土壌空気中の水銀定量
°浅井和見(玉野技術研)

大沢敬子, 今枝一男(星薬科大)

3 C 03 大気中のN₂Oの定量および窒素同位体比測定
°吉田尚弘, 松尾禎士(東工大理)

3 C 04 大気中の硫化水素の挙動—微量硫化水素の光
酸化反応

君島克憲, °栗原武弘, 奥山正善
小沢竹二郎(埼玉大工)

3 C 05 雨水中の二酸化炭素の含量について
°猿橋勝子, 金沢照子(気象研)

三宅泰雄(地化協)

3 C 06 降水中の有機成分
°三角好輝, 小倉紀雄(東京農工大農)

3 C 07 大気降下物中の有機成分
°松本源喜, 半谷高久(都立大理)

3 C 08 発光分析による雨水中の金属量の測定結果に
ついて

°寺岡久之, 小林 純(岡山大農生研)

(13:00~17:00) 座長 小倉紀雄・杉村行勇

中谷 周・中村裕二

3 C 09 東京都の大気・降水中の銅 第1報 エアロ
ゾル中の銅

°信楽義夫, 半谷高久(都立大理)

杉村行勇(気象研)

3 C 10 東京都の大気・降水中の銅 第2報 降水・
落下塵中の銅

°信楽義夫, 半谷高久(都立大理)

杉村行勇(気象研)

3 C 11 大気エアロゾル中の金属成分
°中谷 周(弘前大理)

山田俊雄, 西村雅吉(北大水産)

3 C 12 連続降雨中の化学成分濃度の変動について
竹内丑雄(成蹊気象観測所)

3 C 13 大気圏からのdustと化学成分の降下量, 特に
地球的規模の輸送量について

°品川高儀, 角皆静男(北大水産)

3 C 14 東京におけるトリチウム降下量
三宅泰雄(地化協)

°葛城幸雄, 川村 清(気象研)

3 C 15 地球上におけるトリチウムと⁹⁰Sr降下の地理
的分布

三宅泰雄(地化協)

猿橋勝子, °金沢照子(気象研)

3 C 16 東京における大気降水水中のプルトニウム, ア
メリシウム含量

三宅泰雄(地化協)

°広瀬勝己, 杉村行勇, 猿橋勝子

葛城幸雄(気象研)

3 C 17 ²¹⁰Po/²¹⁰Pb法および²¹⁰Bi/²¹⁰Pb法によるエー
ロゾルの平均滞留時間の差について

角皆静男, °倉田隆喜(北大水産)

3 C 18 土壌中の²²⁶Raと²¹⁰Pbによる大気圏への²²²Rn
の逃散量および大気圏からの²¹⁰Pbの降下量

角皆静男, °倉田隆喜(北大水産)

3 C 19 水圏における²²⁸Ra/²²⁶Ra比(その3) 瀬戸内
海および周辺海域

°大久保 隆(神戸商船大)

阪上正信(金沢大理)

3 C 20 南極みずほ高原の飛雪の酸素同位体組成と水
蒸気輸送過程

加藤喜久雄(名大水研)

D会場
一般講演(9:00~11:20)

座長 今村峯雄・福岡孝昭

3 D 01 中国隕石(その1): 南丹隕鉄
脇田 宏, 武田 弘(東大理)

°小沼直樹, 野津憲治, 西田憲正(筑波大化)

長沢 宏(学習院大理)

欧陽自遠, 王道徳(貴陽地球化研)

3 D 02 中国隕石(その2): 安文隕石
小沼直樹, °野津憲治, 西田憲正(筑波大化)

脇田 宏, 武田 弘(東大理)

長沢 宏(学習院大理)

欧陽自遠, 王道徳(貴陽地化研)

3 D 03 中国隕石(その3): 吉林隕石
野津憲治, 小沼直樹, °西田憲正, 平野真孝

(筑波大化)

3 D 04 コンドルールの化学組成
°福岡孝昭(学習院大理)

R. A. Schmitt (オレゴン州立大)

J. L. Gooding, K. Keil (Univ. New Mexico)

3 D 05 宇宙化学的過程における希土類元素相対存在
度の分化

°長沢 宏(学習院大理)

小沼直樹(筑波大化)

3 D 06 石質隕石中の核反応生成物, 特に長半減期核
種について

°今村峯雄(東大核研)

本田雅健, 仁藤 修(東大物性研)

3 D 07 Ordinary chondriteの母天体モデル—熱源と
しての²⁶Al

°宮本正道, 中村 昇, 藤井直之(神戸大理)

(11:20~12:00, 13:00~17:00)

座長 糸山東一・岡部史郎

渡久山 章・吉岡龍馬

3 D 08 深部帯水層の微小温度変化とラドン濃度
°中村裕二, 脇田 宏, 浅田 敏(東大理)

島村英紀(北大理)

3 D 09 山崎断層における水素の放出
°北 逸郎, 松尾禎士(東工大理)

脇田 宏, 中村裕二(東大理)

野津憲治(筑波大)

藤井直之(神戸大理)

(13:00~)

3 D 10 富士山周辺の湧水の地球化学的研究
岡部史郎, 柴崎道広, °及川智文

(東海大海洋)

215-314

日本地球化学会ニュース

No. 88

1980. II. 1

- 3 D11 大分県野矢水分トンネル内湧水の化学成分と地熱のかかわり
°野田徹郎 (九大温研)
川村政和 (地調)
- 3 D12 山地地下水の化学組成の経年変化とその収支
°吉岡龍馬 (京大防災研)
高谷精二 (南九州大園)
沖村 孝 (神戸大工)
- 3 D13 網走湖の化学成分の挙動
°坂田康一, 安藤和夫 (道公害研)
- 3 D14 感潮河川における平常時および出水時の懸濁物質の挙動について
°古田正次, 大塚治子, 原田文男, 山本 甫
(愛知県公害調査センター)
- 3 D15 感潮河川における重金属元素およびリンの挙動—主として底土の巻き上げとの関連について
°大塚治子, 古田正次
(愛知県公害調査センター)
- 3 D16 河川水質変動現象解析—河川の地球化学的特徴について
糸山東一 (香川大教育)
- 3 D17 北海道の河川底質・土壌における地球化学的研究 第2報, おもな河川底質についての地質学的考察
°藤田隆男, 安藤和夫 (北海道公害防止研)
- 3 D18 沖縄本島北部河川水の化学組成
渡久山 章 (琉大理)
- 3 D19 荒川上流水域の水質
小沢竹二郎, 君島克憲, 根津豊彦
当麻喜明, °川原田 淳 (埼玉大工)
- 3 D20 含ヒ素鉱山廃水の水質挙動とその中和沈殿物の再溶解
後藤達夫 (岩手大教育)

日本学術会議第12期会員選挙について

日本学術会議中央選挙管理会

昭和55年11月には、3年に一度の日本学術会議会員選挙が行われます。

この選挙は、会員を選挙する方も、会員に選挙される方も有権者でなければなりませんので、次のことに御注意ください。

- (1) 新たに有権者としての登録を希望する方は、登

- 録用カードを早めに提出してください。
(2) 引き続き有権者の方は住所、勤務機関、勤務地等登録カード記載事項に変更があった場合は、すみやかに異動届を提出してください。

以上について不明の点がありましたら、下記にお問い合わせください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34
日本学術会議会員選挙管理事務局
03-403-6291

ケミカル・アブストラクツ・サービス (CAS) の全サービス (出版物等) の取扱い開始お知らせ

本会初め27学協会で組織している化学情報協会では、アメリカ化学会との協定によって、1978年からCASサービスのうち電算機可読ファイルの日本国内における流通を一手に扱い、その研究開発と普及に努めてきました。今後、1980年分からCAS全サービスの一手扱を始めることになり、従ってケミカル・アブストラクツを初め全ての印刷物も同協会を経由してご入手頂くことになります。目録等は、直接同協会にご請求下さい。なお、業務量の増大、電算機導入等の都合上、同協会は7月20日から次に移転しましたのでお知らせします。

〒113 文京区弥生2-4-16 学会センタービル内
社団法人 化学情報協会 電 03(816)3462

編集者 安藤 厚・柴田 賢
発行所 日本地球化学会
〒113 東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル (4F) 日本学会
事務センター内
電話 東京 03 (815) 1903

なお日本地球化学会庶務へのお問い合わせは下記へお願い致します。東京都立大学理学部化学科 石渡 良志
(庶務幹事) 〒158 東京都世田谷区深沢2-1-1
電話 東京 03(717)0111

1979年度日本地球化学会総会報告

10月2日午後1時~2時、東京工業大学において会員約100名の出席のもとに行われた。

- 会長挨拶
- 年会委員長挨拶
- 1978年度事業および決算報告、島居監事の監査結果の報告があり、これを承認した。
- 1979年度事業中間および会計中間報告が行われた。
- 1980年度事業計画および予算案を承認した。
- 1980~1981年度の役員選挙結果が報告された。
- 1982年に日本で開催される第5回年代、同位体国際会議について説明があり、共催団体として日本地球化学会が参加することが承認された。

1978年度事業報告 (一部は中間報告として No. 85 に掲載済)

1. 会員現況	正会員	賛助会員	名誉会員	計	
1978年1月	793	18	6	817名	
入会	45	1	0	46	
退会	34	3	2(逝去)	39	
1978年12月末	804	16	4	824	
2. 委員会等開催数					
総会	1	幹事会	4	行事	2
年会	1	財政	2	将来計画	1
例会	2	編集	4	極地	3
評議員会	3	ニュース	3	環境	3

3. ニュース発行
No. 82/83, No. 84, No. 85 計20頁 1000部

4. 会誌発行
G. J. Vol. 12, No. 1~3, 地球化学 Vol. 12, No. 1

5. 出版
「水汚染の機構の解析」産業図書

6. 学会、協会共催等
- ・講演会「元素の起源」黒田和夫氏 (1978/6/30)
 - ・第15回理工学における同位元素発表会 (1978/6)
 - ・GDP 国際シンポジウム (1978/3)

7. 例会

- 2/18 地球化学的手法による地震予知 脇田 宏氏
地球化学的手法による噴火予知 小坂丈予氏
6/10 シミュレーション鉱物学 松井義人氏
シミュレーション融体学 古井和男氏

8. 学会事務センターとの事務契約完了

1978年度決算報告

収入	予算	千円
1. 会費	5,247,529円	(5,460)
正会員	4,719,529	
学生会員	193,000	
賛助会員	285,000	
入会金	50,000	
2. 刊行物売上げ	2,167,020	(2,544)
3. 広告料	0	(50)
4. 助成金	1,020,000	(700)
5. 雑費	73,747	(50)
6. 繰越金	1,976,301	(220)
計	10,434,597	(11,004)
支出		
1. 事業費	7,018,016	(9,809)
出版費	5,503,846	(6,735)
G. J.	3,538,500	
地化	462,156	
別刷	559,110	
ニュース	179,000	
編集費	400,000	(400)
発送費	365,080	(405)
行事費	230,000	(300)
事務費	1,130,150	(1,128)
会員業務郵税	154,020	(0)
2. 管理費	818,050	(1,100)
庶務費	260,000	(300)
会議費	175,740	(300)
通信費	4,100	(50)

学会庶務に関する連絡・お問い合わせは下記へお願い致します。
東京工業大学総合理工学研究所
一國雅己 〒227 横浜市緑区長津田町 4259
電話 045-984-1111